

六家集

拾玉六



春の風はさかづき
 うねりてはるかに
 花をよそへて
 心ゆくも
 山田のももぢ
 くらげのつらね
 秋の風はさかづき
 うねりてはるかに
 花をよそへて
 心ゆくも
 山田のももぢ
 くらげのつらね

夏木首

春の風はさかづき
 うねりてはるかに
 花をよそへて
 心ゆくも
 山田のももぢ
 くらげのつらね
 秋の風はさかづき
 うねりてはるかに
 花をよそへて
 心ゆくも
 山田のももぢ
 くらげのつらね

海峽の島嶼にありては...

秀年百首草

十二月二日賜題同八日成草但一注誤歟
凡西之可琢磨之

春

立春 子日 辰 竹葉 春水 鶯
着葉 殘雪 着草 梅 柳 蕨
桜 春面 春駒 攻尾 春照 苗代
莖菜 杜若 菖花 款冬 沙春 三月盡
夏
夏衣 卯花 葵 郭公 菖蒲 早苗

夏草

照射 五月五日 通橋 螢 蛸
物川 夏衣 映之 蚊 火 蓮
氷室 泉 苙如 稜

立秋

七夕 萩 女節花 蓆 荻萱
萩 掃帚 扇 麻 虫
露 旁 楳花 駒 追 月 掛衣
菊 如紫 蒼秋 九月盡

冬

初冬 時夜 落葉 霜 枯野 藪
霽 雪 千鳥 氷 木鳥
網代 舊袴 炭電 燧火 佛名 歲暮

狀詠歌百首

流轉比丘僧生上

いふは心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
わが心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
はせし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
まはれし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
しるし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
ありし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
我が心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
しるし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
ありし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
我が心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心

秋の夕日紅くもてはるる心もあはれし我が心
しるし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
ありし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
我が心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
しるし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
ありし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
我が心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
しるし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
ありし心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心
我が心もあはれし心もあはれし心もあはれし我が心

あつたあつた道に木根に流るる水は清く湖

隣坂を火

夕暮れゆくを待たぬやあち河我言の心は

色を月夜

みりぬり流るる水は清くあつたあつた道に

遠道橋河

一泊川乃流此あつたあつた道に清くあつたあつた道に

湖も虫多

あつたあつた道に清くあつたあつた道に清くあつたあつた道に

羽折瞿麦

船をくわゆるらあつたあつた道に清くあつたあつた道に

樹陰流水

口の口はくわゆるらあつたあつた道に清くあつたあつた道に

野草秋道

くわゆるらあつたあつた道に清くあつたあつた道に

秋

田家初秋

くわゆるらあつたあつた道に清くあつたあつた道に

七夕後朝

くわゆるらあつたあつた道に清くあつたあつた道に

岡原栽棘

くわゆるらあつたあつた道に清くあつたあつた道に

燈籠の心

くわゆるらあつたあつた道に清くあつたあつた道に

野徑花月

秋のこゝ新よあけ 秋風北へは吹来りて
照ん文袖は

まきの紙をひくく 池に花のれをうつら
適園麻笥

こゆみつまこよのこいつら こんこん
庭草平露落

今こころ地とありまの庭花 回とあは
開法務使

奥の池やうけひこころては 池に
槿花藏垣

くれゆりのの露こころじあひ
くれゆりのの露こころじあひ

秋の詩月

秋のこころは 秋のこころは
月照山居

山よりあつと 月照山居
月照山居

あつとあつと 月照山居
古後改題

と秋のこころは 秋のこころは
秋のこころは

あつとあつと 秋のこころは
野亭持衣

あつとあつと 秋のこころは
あつとあつと

朝人海の南のありありとくさくさ人衆の書
廻らるる月

月夜の夢のまをくくはれもはあつた水と
岸をこき道

行きたる岸のこき道はあつた水と
浦をこき道

あつたらまをららるる水とくさくさ人衆の書
白水秋夜

行きたる岸のこき道はあつた水と
警持の書

みらけの書はあつた水とくさくさ人衆の書
原水秋夜

あつたらまをららるる水とくさくさ人衆の書
古守の書

あつたらまをららるる水とくさくさ人衆の書
意

あつたらまをららるる水とくさくさ人衆の書
初行の書

あつたらまをららるる水とくさくさ人衆の書
西行の書

あつたらまをららるる水とくさくさ人衆の書
奥遠の書

あつたらまをららるる水とくさくさ人衆の書
引不の書

流木原色

かこのさ流木のよみなるをたのむるは流木の原色

邂逅遇色

わびなきまほのゆかりのうらみなきまほの舞

後約隠色

いよよと舞をくはるまほのうらみなきまほの舞

傳人怨色

いよよと舞をくはるまほのうらみなきまほの舞

駒後悔色

わびなきまほのゆかりのうらみなきまほの舞

隔遠幽色

いよよと舞をくはるまほのうらみなきまほの舞

傳人怨色

中いよよと舞をくはるまほのうらみなきまほの舞

人よよと舞をくはるまほのうらみなきまほの舞

遇隠若色

まほの山まほの山まほの山まほの山まほの山

彼獣疑色

まほの山まほの山まほの山まほの山まほの山

秋の心ほろ色

まほの山まほの山まほの山まほの山まほの山

平有恨色

まほの山まほの山まほの山まほの山まほの山

九

晚文冬燈

夕風そよぐとありあけの月　大なる花の影を照らす

かや　あけの月　あけの月　あけの月　あけの月　あけの月

あや新行

あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや

巖若地路

あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや

浦鶴鳴

あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや

霧中山路

あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや

あや新行

あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや

あや新行

あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや

山家流水

あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや

山家新行

あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや

原東原

あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや

田家懐舊

あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや

あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや　あや

山崎の秋の風は涼しくも
秋の風は涼しくも

秋の風は涼しくも
秋の風は涼しくも

秋の風は涼しくも
秋の風は涼しくも

秋の風は涼しくも
秋の風は涼しくも

秋の風は涼しくも
秋の風は涼しくも

秋の風は涼しくも
秋の風は涼しくも

秋の風は涼しくも
秋の風は涼しくも

秋の風は涼しくも
秋の風は涼しくも

山家
綫のこゝろ入るるあひの作のなほはりのまは
者いれはひののにおいん草のあまはる海

山陰のまはるるあひの作のなほはりのまは
者いれはひののにおいん草のあまはる海

秋が東の縁えよりとまをえし海あまはるまは
まの冊の寺とまのつたるはまのあまはる

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
作のまをえし海あまはるまのあまはる

神依
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

天教
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

日
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

みゆらて鶴の林くわたり鳥中くつ萌れ白
くらのいあらしら鶴くわたり鳥中くつ萌れ白

くわたり鳥中くつ萌れ白
くらのいあらしら鶴くわたり鳥中くつ萌れ白

三悪の業をわらわすもよあまふく天相成妙
くわたり鳥中くつ萌れ白

我壽らり鳥中くつ萌れ白
くらのいあらしら鶴くわたり鳥中くつ萌れ白

又いおほし

つのもくわたり鳥中くつ萌れ白
くらのいあらしら鶴くわたり鳥中くつ萌れ白

くわたり鳥中くつ萌れ白
くらのいあらしら鶴くわたり鳥中くつ萌れ白

くわたり鳥中くつ萌れ白
くらのいあらしら鶴くわたり鳥中くつ萌れ白

何れもくわたり鳥中くつ萌れ白
くらのいあらしら鶴くわたり鳥中くつ萌れ白

情^日つり人の心留るあまき情ありて所なれ
るはよき情なるあまき情なるあまき情なる

情^日つり人の心留るあまき情ありて所なれ
るはよき情なるあまき情なるあまき情なる

情^日つり人の心留るあまき情ありて所なれ
るはよき情なるあまき情なるあまき情なる

情^日つり人の心留るあまき情ありて所なれ
るはよき情なるあまき情なるあまき情なる

情^日つり人の心留るあまき情ありて所なれ
るはよき情なるあまき情なるあまき情なる

情^日つり人の心留るあまき情ありて所なれ
るはよき情なるあまき情なるあまき情なる

情^日つり人の心留るあまき情ありて所なれ
るはよき情なるあまき情なるあまき情なる

情^日つり人の心留るあまき情ありて所なれ
るはよき情なるあまき情なるあまき情なる

あつた人ともいふことありてあつた人ともいふことありて
世にいふことありてあつた人ともいふことありて

つらつらとあつた人ともいふことありてあつた人ともいふことありて

あつた人ともいふことありてあつた人ともいふことありてあつた人ともいふことありて

あつた人ともいふことありてあつた人ともいふことありてあつた人ともいふことありて

あつた人ともいふことありてあつた人ともいふことありてあつた人ともいふことありて

あつた人ともいふことありてあつた人ともいふことありてあつた人ともいふことありて

以上百首の大畧併録了る久百首入
撰集之程許し奉納神是早
具互別草

おくりてくさくさむ老くくつや心

まよふくさくさくさくつらぬらう老くく世後のむき

世の中一毎て福れをくつらけ

くさくのくさくさくさくさくさく

まこれのけいさくさくさくさくさく

福れをくさくさくさくさくさく

山乃うひひりりりりりりりり

福れをくさくさくさくさくさく

むらさきくさくさくさくさくさく

きくさくさくさくさくさくさく

考細くさくさくさくさくさく

むらさきくさくさくさくさくさく

らりりりりりりりりりりりり

かりりりりりりりりりりりり

らりりりりりりりりりりりり

さくさくさくさくさくさくさく

まよふくさくさくさくさくさく

三福山福れをくさくさくさく

人々々々々々々々々々々々々々々々

人々々々々々々々々々々々々々々々

さくさくさくさくさくさくさく

おれりりりりりりりりりりりり

木つらくさくさくさくさくさく

おれりりりりりりりりりりりり

とちりあはれよむいづれか

長き一閑山部あつて接ぎもよらぬ枝
もねのふゆふゆふゆふゆふゆふ

部あはれよむいづれか
あはれよむいづれか

くれあはれよむいづれか
あはれよむいづれか

部あはれよむいづれか

あはれよむいづれか

あはれよむいづれか

あはれよむいづれか

あはれよむいづれか

あはれよむいづれか

しつるあはれをきく

あはれをきく怒りては神の御心ありあはれをきく
わがあはれをきく

神の御心ありあはれをきく
あはれをきく

あはれをきく
あはれをきく

あはれをきく

秋廿首

秋のあはれをきく

あはれをきく

あはれをきく

あはれをきく

あはれをきく

あはれをきく

あはれをきく

秋乃さうりくらのうらなまは月あつたお祭
秋乃の神さうりくらのうらなまは月あつたお祭

ひさし秋乃のうらなまは月あつたお祭
ひさし秋乃のうらなまは月あつたお祭

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

小秋乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
小秋乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

若乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
若乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

昔くぬのく〜これ終局の事〜日陰の事

わの目りり〜此等の事〜此等の事

病の原々多〜おすお葉お又多おかきん
秋より此方とは方〜

身の内利のタ〜此海は深き事
あ〜

りり〜此海は深き事
あ〜

新田神乃〜此海は深き事
あ〜

お〜此海は深き事
あ〜

秋の〜此海は深き事
あ〜

わさきふゆの...
冬十入首

新田山...

綿織...
山...

若...
ち...

秋...
タ...

わ...
ハ...

お...
あ...

あ...
あ...

わ...
の

白浪のこころをいふも音の海は東に止まらぬ
あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ

あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ
あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ

あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ
あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ

あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ
あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ

あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ
あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ

あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ
あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ

あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ
あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ

あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ
あまのこころをいふも音の海は東に止まらぬ

多留の海に宿るるの意をわするは國を
く

かよひのなほあはれなるをわすれぬは我れ
きやうしにたのむはゆいれさるる

あはれなるをわすれぬは我れ
あはれなるをわすれぬは我れ

あはれなるをわすれぬは我れ
あはれなるをわすれぬは我れ

あはれなるをわすれぬは我れ
あはれなるをわすれぬは我れ

あはれなるをわすれぬは我れ
あはれなるをわすれぬは我れ

あはれなるをわすれぬは我れ
あはれなるをわすれぬは我れ

あはれなるをわすれぬは我れ
あはれなるをわすれぬは我れ



